

声で届ける まちの情報

音訳ボランティアサークル「やえせ」は視覚障害者のためにまちの身近な情報を届けたいと町広報誌をはじめ社協たよりの音訳テープの製作・編集を中心に行っているサークルです。平成6年、東風平町社会福祉協議会主催の第1回音訳ボランティア養成講座が開催され、その講座終了と同時に音訳ボランティアサークルが結成されました。今年の10月で結成15年目を迎えるにあたり「声の広報」の活動についてご紹介します。



声の広報を聞いているリスナーさんに感想を聞きました

**私の目の代わりになって
いることに感謝**

声の広報を聞くようになったのは3年前から。自分の住むまちでどういふことが起こっているのか当然に知りたい気持ちは強かったので大変助かっていました。テープだと繰り返し聞くこともできるし、写真の説明も細かく声にしてくれるので音訳ボランティアの方々の声が私の目の代わりとなってってくれていることに感謝の気持ちでいっぱいです。



内村茂子さん

**毎月、声の広報が届くのが
楽しい**

音訳ボランティアサークルが結成された時から聞かせていただいています。皆さんの音訳の上達ぶりに驚かされると同時に誠意あるボランティアに大変感謝しています。年を重ねる度に一人ひとりの個性ある声を暖かく感じながら毎月声の広報が届くのを楽しみしています。



宮里清子さん

**交流会を通して
質の向上に努める**

音訳ボランティアの会員らは、音訳テープを聴いているリスナーさんと定期的に交流会を開いています。交流会では、互いの率直な意見を出し合い今後に生かしていこうと企画されているものです。音訳ボランティアサークルの副会長を務める新垣真知子さんは「互いに顔を合わせるところから新しい発見が生まれ、リスナーさんの要望に応えられる。ここでの意見が音訳の質の向上に繋がっています」と交流会の重要性について話します。また、交流会では、レクリエーションなども行われ、互いの親睦を深める場所にもなっています。

声の広報を聞いているリスナーさんと交流会。レクリエーションも交えて意見交換を行っています。



**正確に、
わかりやすく伝える**

音訳ボランティア養成講座の受講生たちが「少しでも何か役にたつことができれば」という思いからはじまった音訳ボランティアサークル。当初は、慣れない音訳作業に戸惑うことも多かったようです。音訳は、活字だけでなく写真やグラフなど言葉として説明しなければならぬため「活字に表現しにくい内容を伝えるとき、正確に、またわかりやすいように表現するのは何度やっても難しい」と語る会員ら。毎月の定例会の中で録音作業の進め方についてお互い意見を交換しながら正確に情報を伝えられるように研究しています。

音訳ボランティアサークル「やえせ」のメンバー。和気あいあいとした中でも、お互い意見交換しながら声の広報の向上に取り組んでいます



活動の原動力

音訳ボランティアの会員らは毎月録音するページが割り振られたら、各自で音訳練習を行い指定された日に八重瀬町社会福祉協議会で都合のいい時間帯に録音を開始。録音されたページは音量などを統一しながら一本のテープに編集していきます。その後、ダビング作業を行い対象世帯に配布されます。「録音の作業は小さな部屋にこもって少しずつ録音していく、とても地味なものです。しかし、テープを利用しての方にとっては、耳から得る情報がとても重要な意味を持ちます。テープを楽しむに待っててくれる人がいることが、私たちが活動する力の源になっている」と会員全員が同じ気持ちと語ってくれました。



リスナーさんから届いた点字の手紙もメンバーの活動の原動力になっています

郵便局も後押し

現在、音訳サークルのメンバーが音訳したテープは毎月、10〜15世帯に届けられています。平成13年から郵便株式会社東風平郵便局の協力で配送をボランティアで引き受け、音訳サークルの活動の後押しを行っています。東風平郵便局の中村武志局長は「地域に身近で親しまれる郵便局をスローガンに取り組んでいるので私たちにできることがあれば協力していきたい」と話しています。



写真左から郵便局で勤める宮城未子さんと中村武志局長

あなたも音訳
はじめてみませんか？



音訳ボランティア
サークルの会長
松川みどりさん

音訳ボランティアサークル「やえせ」ではボランティアを随時募集中です。お気軽にご連絡ください。

八重瀬町社会福祉協議会
TEL 998-4000